

優秀賞 ゆうりさん（京都府 高校1年）

「若者と高齢者の相互作用」

私の住んでいる京都府京都市は、現在財政難に見舞われている。主な原因は、少子高齢化による高齢者のための支出の増加と、労働力不足と考えられている。また、近年地球温暖化などによって、自然災害が多発し、住民の安全が脅かされている。私は、京都は伝統があり、長い歴史が創り出した魅力がたくさん詰まった街だと考えている。私の好きな地元を、どのようにすれば、より安心安全で活気のある街にできるだろうか。

京都の活性化を考えると、財政とともに環境についても考える必要がある。その背景として、SDGs（持続可能な開発目標）が採択されて以来、より多くの人々により、環境破壊などによる甚大な被害が認識されてきたことがある。京都市の門川市長は、令和元年5月に、日本の自治体の長として初めて「2050年CO₂排出量正味ゼロ（ゼロカーボン）」を目指すことを宣言した。具体的な対策として、太陽光発電設備の普及、再生可能エネルギー電気を選択促進などが挙げられている。そこで、私は環境対策の中でも、廃棄物の削減に注目した。

金沢工業大学 SDGs 推進センターによって製作された、シェアアンドサルベージという、フードロスを考えるゲーミフィケーションを家族でプレイした。私の父は飲食店を営んでいるので、フードロス問題が身近に感じられたためだ。

このゲームのプレイ中、私は京都復興方法の着想を得た。服の廃棄やフードロスなどが問題視されているが、それらの廃棄物を工夫して再利用するというものだ。廃棄物を京都の工芸品、例えば西陣織、京友禅などの材料として使用し、商品化する。このようにして、京都の伝統品を環境にやさしいものに作り替えていく。そうすることで、京都は環境と伝統が共存する、魅力的な街に近づけよう。ここで鍵になってくるのは、もちろん若者の存在である。高齢化が進む今、若者の力が必要なのだ。京都は学生の街として人気があるが、社会人になると京都から出て行くケースが多い。よって彼らが大学卒業後、都市に流出することを防がなくてはならない。そのために、大学をはじめとする学校の授業の一環として、京都の

伝統工芸を体験する機会を設けることにより、京都の魅力をより身近に知ってもらう必要がある。

また、若者は、おしゃれで見栄えの良い物をインスタグラムに乗せる風潮がみられる。それに合わせ、工芸品にトレンドのデザインを取り入れる。そうすれば、SNSを通じて様々な人に京都の魅力を知ってもらえる。

次に、私は公園など、近隣住民が誰でも無料で使える憩いの場を増やすべきだと考える。高齢者が年々増加してきているのを踏まえ、彼らが安心して老後を過ごせるような環境を整えるのだ。また、高齢者向けのイベントを多数開催することによって、高齢者にとっても快適に過ごせる街にする。

そして、2045年の京都は、環境にやさしく、若者にも高齢者にも人気の街となり、財政危機を乗り越える。

若者と高齢者の共存がこれからの時代を考えるうえで重要になってくるだろう。両者がともに同じ街に暮らすことにより、関わりが生まれ、高齢者によって築かれてきた、歴史や伝統と若者の新しい考え方が融合し、多様な意見が尊重される温かく、画期的な街が形成されていく。

幅広い年齢層の人々と関わることで、思いやりの心も育まれ、自分と異なる人への理解が深まり、SDGsが目指す多様性に富み、環境に優しい地域社会が実現されるのだ。